

土木とわたし

株式会社 熊谷組 名古屋支店
土木事業部土木部 技術グループ

● 小澤 里佳

土木との出会い

私は、日本一の総貯水量を誇る「徳山ダム」のある岐阜県で生まれ育ちました。父も土木の施工管理の仕事をしていますが、子供の頃の私には父がどんな仕事をしているか、あまり印象がありませんでした。一時期、父が単身赴任をしていたことがあり、なぜ帰ってこないのか母に尋ねたことがありました。母は、「お父さんは愛知県で高速道路を造っているんだよ。すごいよね!」と言っていました。どんな仕事をしているのか、当時の私にはあまり理解できません

でした。



普段の仕事風景

私が小学生の頃、実家を新築しました。庭や外構は週末になると父が少しずつ自分でやっていて、遊びの延長で私も手伝っていたのを思い出します。ブロックを積んでフェンスを張り、庭石を並べて庭木を植えて、アプローチにはタイルを

貼って…。今思えば、幼い頃のこんな経験が、少なからず私の進路にも影響を与えたのだと思います。

土木の道に進もうと決めたのは、大学に進学する時です。それまでは将来何がしたいのか、はっきりとしたビジョンを描けずいました。でも子供の頃の経験や、ダムや橋梁やトンネルなどの大型構造物や建設機械にとっても興味があったことなどがきっかけで、土木系の学科に進学することを決めました。就職も、四年間学んだことを一番生かせる職業に就こうとゼネコンを志望しました。この頃、父にゼネコンに就職しようと考えていると伝えると、「建設業界は男社会だから、きつといるんなら苦勞したり、辛い思いすることがあるぞ。それでも大丈夫か?」と言われました。業界を一番よく知る父のこの言葉は、就職した後も何度も思い出し、その意味を痛感させられました。

技術提案に関する業務に携わって

平成二十年にあの「徳山ダム」を施工した(株)熊谷組に入社し、国交省発注の共同溝の立坑構築工事に配属になりました。私が入社した当時は、業界全体でも女性の土木技術者はまだまだ少なく、社内では私が二人目でした。上司たちも女性と一緒に働いたことがなく、今思えば、お互いに戸惑ったり、いろいろな気を遣わせてしまったりしたと思います。

四年前に内勤に異動になり、工事計画や現場支援を担当しています。現在はそれらの業務に加えて、主に国交省や農政局発注の工事や、民間工事の技術提案に関する業務も行っています。技術提案を担当するまでは、提案書がどのように作られていて、入札や工事においてどのような役割を果たしているか、ほとんど知りませんでした。担当した当初は、提出期限に追われて内容もよく理解できていまま作成していました。しかし、いくつか案件をこなしていくうちに、少しずつ自分の中でも余裕ができ、提案



技術提案を担当した瀬戸川左岸工事現場にて

通常業務に加えて三年前からリクルートの一環で学生と関わる機会が増えました。ゼネコンを志望している学生の大半は男子学生ですが、ここ数年は土木系の女子学生も少しずつ増えて嬉しく思っています。また、私が現場にいた頃に比べ、ハード面・ソフト面ともに現場で女性が働きやすい環境がずいぶん整ってきました。

東京オリンピック関連事業やリニア中央

建設業界と女性技術者のこれから

何が気になるか、どんな対策をしたらいいかとストレスが軽減されるか、という観点から問題点を考えて提案書を作成しました。工事受注後には現場へ赴き、提案内容を確認したり、現場の担当職員から意見を聞かせてもらったりして、今後の提案に役立てています。

内容を理解できるようになりました。分かりにくい言葉遣いや言い回しはやめ、説明が足りないような部分は補足するなど、少しでも読み手に理解してもらえるような文章を心掛けています。また、提案書や図表のレイアウトに関しても、読みやすくすっきりとした統一感のある提案書になるよう気を配っています。

関東農政局発注の「大井川用水（二期）農業水利事業瀬戸川左岸幹線水路整備工事（その六）」の技術提案書は私が担当させてもらい、課題は振動・騒音対策でした。ここは近隣の住宅が細い路地を挟んで現場の脇にあり、工事に伴う振動や騒音がダイレクトに伝わってしまいます。もし自分がこの近所に住んでいたら、

新幹線の建設に伴い、首都圏では大規模工事が多く、女性技術者が活躍している現場もたくさんあり、その活躍がメディアでもよく紹介されています。しかし、地方ではまだまだ女性技術者が活躍できる場が限られており、首都圏との温度差を感じます。また、女性技術者がクローズアップされるのはメリット・デメリット共に様々あると思いますが、当事者である私たちの中には、なぜ男女を区別して、「女性技術者」だけが取り上げられるのだろうかと思っている人もいるのではないのでしょうか。確かに、男性と同等に働くことは難しい場面もありますが、他の業界と同じように男女関係なく、好きなことをやりがいを持ってやれることが大切だと考えます。これから女性が現場で活躍しているのが当たり前な業界にするためにも、私ができることを努力し、後輩たちに引き継いでいきたいと思っています。



学生を招待してのトンネル現場見学会にて

さて、今回は東急建設株式会社の森田さんをお願いしたいと思います。

小澤さんからのバトンをしっかりと受け取りました。次号では、河川工事での現場経験を中心にお話したいと思います。楽しみにしてください。

東急建設株式会社 営業本部
官庁営業部 土木積算グループ

森田 麻友

